

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.3 ◇◆
2008年11月26日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

————◇◆ INDEX ◇◆————

1. 犯罪からの子どもの安全レポート
—セーフコミュニティ第17回世界会議と厚木市の取組み
—児童虐待防止推進月間について
2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・

————◇◆◇◆◇————

1. 犯罪からの子どもの安全レポート

皆さん、こんにちは！
寒さが徐々に増してきた今日この頃、いかがお過ごしでしょうか？

皆さんはセーフティプロモーション、あるいは、セーフコミュニティという言葉をご存じですか？

- ・セーフティプロモーション：
住民が平穩に暮らせるようにするため、事故や暴力及びその結果としての外傷や死亡を、部門や職種の垣根を越えた協働による科学的に評価可能な介入により予防しようとする取組のこと
- ・セーフコミュニティ：
事故やけがは偶然の結果ではなく、予防できるという理念のもと、行政と地域住民など多くの主体の協働により（中略）安心して安全に暮らすことができるまちづくりを進めるもの

○日本セーフティプロモーション学会HPより：
<http://www.safetyprom.com/index.html>

平成19年に立ちあがったばかりの日本セーフティプロモーション学会。犯罪からの子どもの安全についても大変参考になる取組み・考え方です。今回は、先日、ニュージーランドで開催されたセーフコミュニティの世界会議に参加した石附 弘 領域アドバイザーに、参加レポートをご寄稿いただきましたので、どうぞご覧ください。

レポート2本目は、児童虐待に関するものです。

よく、〇〇月間や△△の日というのがありますが、誰がどのように決めているのだろう？などと考えたことはありませんか？
11月は児童虐待防止推進月間、11月25日～12月1日は犯罪被害者週間です。イベントの開催などもあるので、このような機会に、ウェブなどで検索してみてもいいのではないでしょうか。

さて、領域活動についてです。

この領域では、月1回程度、領域運営について話し合う領域会議を開催しています。10月末に開催した会議では、7～9月にかけてプロジェクト実施者の皆さんにヒアリング等を行った中から、領域運営に対する要望等について報告を行いました。

犯罪からの子どもの安全に向けて、研究開発を行い、その成果を社会に還元していくことは、大切ですがとても難しいことです。

この領域について評価いただく委員会の方々と、先日、意見交換を行いました。その際にも改めて難しさを感じました。

実施者の皆さんからいただいたご意見を基に、私たちセンターの取組みも改善していきたいと考えています。そのためにも、まずはお互いを知ることです。領域関係者が集まり議論しよう！ということで、12月には1泊2日の合宿を行います。

その模様については、後日、レポートしたいと思います。

お楽しみに♪



●10月20日～23日開催
「セーフコミュニティ第17回世界会議と厚木市の取り組み」
(ニュージーランド・クライストチャーチ) 参加レポート

今年の「交通安全白書」(内閣府)で、日本初のセーフコミュニティの認証を受けた亀岡市の活動が紹介され、「セーフコミュニティ」という言葉が一躍注目を浴びている。

だが、ここでいう「セーフコミュニティ」とは、一言でいえば、WHO(世界保健機関)認証センターの審査をクリアした質の高い安心・安全なまちに贈られる栄誉ある称号であり、認証を受けても成果が出なければ取り消される。

従って、我々が日頃使っている「安全なまち」とは違うし、そのまま日本語直訳するとセーフコミュニティの真髄や深い戦略性が表しえない。

筆者は、厚木市セーフコミュニティ専門委員として、今般、ニュージーランド(NZ)の世界大会および世界144番目の認証都市Christchurchの認証式に参加する機会を得た。

3日間にわたるNZの大会では、スヴァンストローム博士(スウェーデン、カロリンスカ医科大学)などこの領域の世界のトップリーダー達の、セーフコミュニティの理念や活動方向に対する熱い思いが飛び交う中、各分科会では、子どもの安全、学校の安全のほか、家庭の安全、高齢者の安全、職場の安全等に対する世界の様々な具体的な取組みが紹介され、参会者との熱心な質疑応答が行われた。

筆者も厚木市の職員とともに厚木市におけるセーフコミュニティに向けての積極的な取組みのPRに務める傍ら、関係者の先進的かつ果敢な取組みに耳をそばだてたのであった。

セーフコミュニティは、約30年にわたるスウェーデンでの社会実験から産み出された「コミュニティづくりの体系」で、1989年にWHOで制度化された。

「事件・事故は決して偶然の結果ではなく予防できる」という理念のもと、不慮の事故・事件の地域特性を抽出し、すべての安全関係者が協働して知恵を結集し皆で住み良い魅力的なコミュニティを創っていこうという取組みで、今、日本各地で課題となっている市民参画型・官民協働のまちづくり事業に関する、世界基準のモデルの1つともいえる。

セーフコミュニティの手法の特色は、①安全や健康に関する地域に内在する具体的課題（リスクの所在や頻度）を科学的に明らかにしつつ、②すべての安全対策関係者（行政や関係機関、NPO、市民）が職種横断的に協働して問題解決を図る点にあり、③このことによって「コミュニティ」全体の「安全の質」の向上、即ち、市民の生活安全の質の向上（QOL）及びそのサステイナブル（継続的）な進展を図っていこうという極めてダイナミックかつ実践的な手法であり、それ故に、行政トップの強いリーダーシップが求められている。

世界各国で多くの成果が検証されており、厚木市もこれに学びつつ、厚木の特性を踏まえた日本発の「セーフコミュニティ」づくりに挑戦しようというのである。

（厚木市セーフコミュニティ専門委員 石附 弘）

※International Safe Communities Conference
→ <http://www.conference.co.nz/index.cfm/lsc08/Welcome>

※セーフコミュニティ厚木市
→ <http://www2.city.atsugi.kanagawa.jp/bouhan/safecom/index.html>



●平成20年度「児童虐待防止推進月間（11月）」について

「オレンジリボン」をご存じですか？

オレンジリボンは、子ども虐待防止のシンボルで、子ども虐待の現状を広く知らせ、子ども虐待を防止し、虐待を受けた子どもが幸福になれるように、という気持ちが込められているそうです。

厚生労働省では、平成16年度から、児童虐待防止法が施行された11月を「児童虐待防止推進月間」と定め、期間中に児童虐待防止のために、ポスター・リーフレットの配布、フォーラムの開催など、さまざまな取り組みを集中的に実施しているとのこと。

平成19年度の全国の児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数は、40,639件にのぼり、児童虐待防止法施行前の平成11年度の約3.5倍に増えています（厚生労働省の調査結果より）。

その中には、子どもの生命が奪われるなど重大な事例も含まれており、児童虐待問題はますます深刻化・顕在化しています。

子どもの心身の発達及び人格の形成に重大な影響を与えるため早急な解決が望まれますが、虐待の背景が多岐に渡るため、一元的な方法では解決は難しく、虐待の発生予防、早期発見・早期対応から虐待を受けた子どもの自立に至るまでの切れ目のない総合的な支援体制を整備・充実していくことが必要とされており、そのような観点から国も児童虐待防止対策を講じています。

当領域でも、この問題にとっても関係しそうなプロジェクトが2件、今年度より研究開発を行っていますの以下に紹介します。

一つは、「虐待などの意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」（研究代表者：山中龍宏 産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター内CIPEC代表）です。

このプロジェクトでは、これまで医療現場の専門家個人に委ねられていた不慮の事故と虐待などの意図的な傷害との見極めをサポートするシステムの開発を目指しています。

もう一つは、「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」
(研究代表者：仲真紀子 北海道大学大学院文学研究科 教授)です。

このプロジェクトでは、事件に巻き込まれた／巻き込まれそうになった子どもからより正確な情報をより多く引き出す面接法の開発と訓練を行うことを目指しています。虐待においても、子どもから適切に話を聞き出すことは、問題解決への重要なキーポイントではないでしょうか。

平成20年度「児童虐待防止推進月間（11月）」の実施についての詳細はこちらをご覧ください

→ 厚生労働省HP <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/09/h0919-3.html>

(領域担当 S.F.)

2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取り組み

平成20年版 犯罪白書のあらまし（法務省）
<http://www.moj.go.jp/HOUSO/2008/index.html>

青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律施行令（案）に対する意見募集（総務省）
http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/081017_8.html

第1回子どもの心の診療拠点病院の整備に関する有識者会議資料
(厚生労働省)
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/09/s0919-7.html>

その他の取り組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成20年11月27日開催 内閣府 青少年育成全国大会
<http://www8.cao.go.jp/youth/ikusei/h20taikai.html>

平成20年11月28日開催 警察庁 社会安全セミナー「フランスの犯罪予防対策」
<http://www.npa.go.jp/seisakukenyuu/11-28SEMINAR.htm>

平成20年12月5日開催 国土文化研究所 平成20年度国土文化研究所セミナー
「犯罪発生の確率が高い場所の特性 ―犯人目線からの防犯まちづくり―」
<http://www.ctie.co.jp/kokubunken2/02activities/pdf/081205seminar.pdf>

平成20年12月6日 佛教大学通信教育部公開講演会「揺らぐ時代の青少年と犯罪
～いかにして犯罪を防止するか～」
<http://www.bunet.jp/topic/event/080423.html>

平成20年12月13日 第5回日本市民安全学会埼玉県戸田大会
<http://www.shimin-anzen-gakkai.org/>

平成20年12月13日～14日開催 日本子ども虐待防止学会 第14会学術集会広島大会
<http://hiroshima-ped.com/jaspcan14/>

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【今月の見どころ】

今月の見どころはトピックスから、近日掲載予定の
「プロジェクト実施者インタビュー 第3回」です。

今回インタビューしたのは、「犯罪からの子どもの安全を目指した
e-learningシステムの開発」という大阪教育大学学校危機メンタルサポート
センターの藤田大輔教授が代表者を務めるプロジェクトです。

今回は、藤田代表をはじめ、グループリーダーの皆さんが集まる全体会議に
お邪魔して、お話を伺いました。長時間に渡る会議の後にも関わらず、快く
取材に応じてくださいましたことに感謝です。

多様なバックグラウンドを持った皆さんのお話は大変興味深いです。
ぜひご期待ください！

第1回、第2回をまだご覧になっていない方はこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/column/>

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

- ☆1位 研究開発プログラム
<http://anzen-kodomo.jp//program/index.html>
- 2位 メールマガジン
<http://anzen-kodomo.jp//mail/index.html>
- 3位 研究開発プロジェクト
系統的な「防犯学習教材」研究開発・実践プロジェクト
http://anzen-kodomo.jp//program/research/n_sakamoto.html

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

- ▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>
- ▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2008年11月26日

■発行元

(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域
領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>
社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
